

令和2年度  
鹿角市総合教育会議

会 議 録

令和2年12月18日

鹿 角 市  
鹿角市教育委員会

令和2年度鹿角市総合教育会議を令和2年12月18日午後1時30分から鹿角市役所第1・2会議室にて開催した。

1. 出席した者の氏名は、次のとおりである。

市長	児玉	一
教育長	畠山	義孝
教育委員	田中	喜昭
教育委員	和田	学
教育委員	吉田	孝子

2. 事務局職員として出席した者の氏名は、次のとおりである。

総務部

政策企画課長	阿部	正幸
同 総合戦略室長	古田	渡

教育委員会

教育部長	加藤	卓
教育次長兼生涯学習課長	花ノ木	正彦
総務学事課長	成田	真紀
総務学事課学事指導管理監	成田	勇信
スポーツ振興課長	成田	匡
総務学事課学事指導班指導主事	海沼	哲史
総務学事課副主幹兼学事指導班長	鈴木	忍
生涯学習課主幹兼文化財班長	佐藤	洋輔
生涯学習課副主幹兼社会教育班長	村木	芳
生涯学習課文化の杜交流館長	成田	小百合
大湯ストーンサークル館副館長	熊谷	純明
スポーツ振興課主幹	田原	智明
総務学事課主幹兼総務班長	大森	美佳子

3. 協議事項

(1) 第7次鹿角市総合計画（案）について

(2) 鹿角市教育大綱（案）について

(3) 重点的に講ずべき施策について

- ・第2次鹿角市学校教育振興基本計画（素案）について
- ・第8次鹿角市社会教育行政中期計画（素案）について
- ・第3次鹿角市スポーツ推進計画（素案）について

4. 傍聴人数 2人

5. 会議の概要は次のとおりである。

<p>総務学事課主幹 兼総務班長</p>	<p>まだお一人お見えになりませんが、定刻となりましたので、ただいまから令和2年度鹿角市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、児玉市長よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>児玉市長</p>	<p>はい。本日は、お忙しい中ご出席頂きまして誠にありがとうございます。また、皆様には、日頃より本市の教育行政の充実と発展はもとより、市政の各般にわたり、ご理解、ご協力を頂いておりますことに、心より感謝申し上げます。本市では、これまでの取り組みを総括しながら、今後10年間の方向性を示す第7次鹿角市総合計画の策定を進めているところであります。急速に進む少子高齢化をはじめ、デジタル変革時代のICT化、グローバル化、また、感染症対策など、社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、すべての市民が幸せで未来に希望を抱いて暮らせるまちの実現を目指し、様々な施策を展開してまいります。その中でも、将来の鹿角市を担う人材の育成は重要な戦略の一つであり、学校と家庭、地域社会が連携した教育により人材を育てていくことが、持続可能な地域の発展につながりますので、さらなる教育施策の充実が必要であると考えております。</p> <p>この会議は、教育委員の皆様と直接意見を交わす場として、大変意義のあるものと捉えており、このあと、教育大綱及び各計画について説明させていただきますので、皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、一言開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>総務学事課主幹 兼総務班長</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして畠山教育長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>畠山教育長</p>	<p>はい。ただいま市長からご挨拶がございまして7次総に触れていただきました。奇しくも昨日、12月定例議会最終日に基本構想が議決をされました。基本構想の中には、教育分野も含めて多種多様な政策、方向性が示されております。この後、政策企画課の方からご説明していただくことになろうかと思いますが、この基本構想、そして、前期5年間の総合計画の構成に合致する教育委員会3課それぞれに関する計画を、素案の段階ではございますが、今回お示しをさせていただきました。最終的に教育委員会会議の議決を経た後に、スタートするということとなりますが、これらを十分に生かしまして、皆様方から活発な意見がこの場で展開されるものと思っております。</p> <p>6次総の中では、総務学事課関係では学校等の再編が一通り目途がつくということでもあります。また、市長の理解のもとに、ICT環境、そしてエアコンの環境整備がスタート、途に就こうとしております。また、生涯学習部門では、花輪祭の屋台行事がユネスコ遺産登録され、さらに大湯ストーンサークル、そして、毛馬内の盆踊りが今度のユネスコ登録を目指しているところでございます。さらに、コモッセという素晴らしい芸術文化施設がオープンいたしました。スポーツ部門では、この10年間で全国規模の大きな大会をそれぞれ開催することができ、人材の育成、また、競技人口の拡大、合宿誘致、そして合宿誘致のための手厚い支援策を拡充してまいりました。こういった3つのそれぞれの部門の今までの10年間の反省をもとに、次の計画になろうかと思っております。文科省の方では、来年度以降、段階的に公立の小学校で35人学級に踏み込むというニュースがございました。さらには、大学入試改革も進もうとしております。そして、鹿角に目を向けた場合は、4年後、令和6年には、鹿角3校の統合校が開校いたします。鹿角市の未来を担う子ども達が学力が定着し、そして、これがさらに向上し、本市の次の計画であります第7次鹿角市総合計画に掲げるふるさ</p>

	とを誇り未来を拓くまち鹿角の一員として成長することを、教育部門から後押しをしていきたいと思っております。本日は何卒よろしくお願い申し上げます。
総務学事課主幹 兼総務班長	ありがとうございました。 それでは協議に入りますが、会議の進行は児玉市長にお願いいたします。
児玉市長	はい。それでは、早速ですが協議に入らせて頂きます。次第4の協議事項の(1)第7次鹿角市総合計画(案)について、事務局より説明をお願いします。
政策企画課総合 戦略室長	<p>はい、政策企画課の古田と申します。私から、第7次鹿角市総合計画(案)についてご説明いたします。資料の1をご覧ください。市では、総合的で計画的な都市経営を推進するための方針として、新たな総合計画を令和3年度からスタートさせるにあたり、目指すまちの姿とその実現に向けた基本姿勢や戦略などを示す基本構想を策定し、昨日議決いただいております。第7次総合計画では、将来都市像を「ふるさとを誇り 未来を拓くまち 鹿角」とし、すべての市民がふるさとに誇りを持ち、ふるさと鹿角の価値を最大限に生かしながら、新たな時代に自分らしくチャレンジすることで、市民一人ひとりが幸せで、未来に希望を抱いて暮らせるまちの実現を目指します。また、将来都市像の実現に向けた戦略として、産業・福祉・教育など、健康で文化的な暮らしを守る5つの基本戦略を設定するとともに、自然・比較優位産業・歴史文化など、本市の強みを最大限に引き出すことで、都市経営力を高めるための3つの経営戦略を設定し、攻守の両輪で市民の幸福度を高め、総人口が減少する中であっても、人口構造の若返りによる持続可能な社会システムの構築を目指します。現在、令和7年度までの5カ年の市の取り組みを総合的に示す「前期基本計画」の策定を進めておりますが、これら8つの戦略を推進するために、33項目の取組方針を設定する予定としており、その中に教育関係の項目も予定しております。前期基本計画の決定は、まだでありますけれども、この後の協議事項(2)(3)にも、つながるものでありますので、委員の皆さまで、合わせて意見交換いただければと思います。</p> <p>それでは、資料2において、教育関係で抜粋した取組方針についてご説明いたします。1ページをお願いします。基本戦略5の「未来に羽ばたく人材を育てる」には、3項目の取組方針を設定する予定であります。はじめに、取組方針19「子どもから青少年までの生きる力を育みます」では、青年期に至るまで、必要なときに相談できる体制を強化するとともに、子どもが自ら育とうとする力を支援することで、成長期に育まれる生きる力を引き出すことを目指し、次のページになりますが、そのための事業展開の方向性を整理しております。なお、主な事業については、まだ調整段階にありますので、現在は掲載しておりませんが、①、②など、それぞれの方向性に資する具体的な事業を位置づけながら、成果指標の達成に向けた事業群を構成し、目指すまちづくりを着実に推進していくものです。①の豊かな心を育み、のびゆく子どもを支える学習環境づくりでは、学校の居心地がいいと感じている児童生徒割合の向上を目指すなど、3つの方向性で取り組みます。</p> <p>3ページをお願いします。取組方針20「地域の特色ある教育活動を実施します」では、地域の特色のある教育活動を展開するとともに、未来を切り拓いていくことのできる教育の充実を目指し、そのための事業展開として、③の体験等を通して成長できる機会の創出では、児童生徒の地域行事への参加割合の上昇を目指すなど、3つの方向性で取り組みます。</p> <p>5ページをお願いします。取組方針21「自ら学び、行動する社会人を支援します」では、生涯を通して教養や技術を高めることができ、生きがいや喜びを地域に還元で</p>

	<p>きるまちづくりを推進するための事業展開として、②の新たな教養や感動を生み出す相互学習機会の充実では、文化の杜交流館文化ホールの利用者数の増加や、市民センターの新規サークル登録団体数の増加を目指すなど、3つの方向性で取り組みます。</p> <p>7ページをお願いします。次に経営戦略1になりますが、「まちに人・モノ・外貨を呼び込む」では、6項目の取組方針を設定する予定ですが、教育委員会が所管している事業に関連するものは3項目となります。取組方針25「スポーツの力でまちの魅力を高めます」では、スキーと駅伝のまちづくりによる交流人口拡大や、スポーツと結びつく資源の最大限活用による地域経済の活性化を図ることを目指し、②の全国級の大型大会開催とスポーツを支える人材の育成・確保では、主要なスポーツ行事の開催による経済波及効果の増大を目指すなど、2つの方向性で取り組みます。</p> <p>9ページをお願いします。次に経営戦略2「世界遺産のまちをつくる」ですが、ここでは、2項目の取組方針を設定する予定です。取組方針28「文化財の保存に取り組みます」では、地域内外の文化交流を推進するとともに、そういった地域探究活動の活性化を通じて、文化財保存活動も高まることを目指し、①の伝統芸能などを末永く後世に伝えるための各種保存団体・後継者の育成では、文化財を担っている団体の人数の確保を目指すなど、2つの方向性により取り組みます。</p> <p>最後に11ページをお願いします。取組方針29「ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます」では、世界遺産登録の効果を一過性のもので終わらせることなく、全国、世界に認められる地域を目指し、③の観光資源としての文化の最大限の活用では、大湯環状列石のガイド件数の増加や、大湯ストーンサークル館の来館者数の増加を目指すなど、4つの方向性により取り組みます。以上が、第7次総合計画の一部ですが、こうしたまちづくりの方向性について共有いただき、今後も連携を密にしながら、実効性の高い事業化によって、将来都市像の実現を図っていきたいと考えております。以上で、説明を終わります。</p>
児玉市長	<p>はい、説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見ご質問等がございましたらご発言願います。ございませんか。</p> <p>ないようですので、次に（2）鹿角市教育大綱（案）について協議いたします。事務局より説明をお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、着席したまま説明させていただきます。鹿角市教育大綱（案）について説明させていただきます。資料の3をご覧ください。教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成27年度から地方公共団体の長に策定が義務付けられており、法律第1条の3の規定に基づきまして、この会議において、鹿角市の教育に関する大綱を策定していただくものです。現在の大綱の対象期間は、平成28年度から5か年の令和2年度までであるとともに、市の第6次総合計画及び教育施策に関する各種計画についても今年度見直すこととなっているため、あわせて大綱も見直すものであります。</p> <p>大綱の構成であります。本文に入ります前に、策定の趣旨、策定の基本的な考え方、期間をうたっております。1、策定の趣旨についてであります。教育基本法第17条第1項の規定に基づき、政府が策定する教育の振興に関する施策についての基本的な方針を参酌し、地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。2、策定の基本的な考え方についてであります。第7次鹿角市総合計画を最上位計画とし、教育委員会が策定する鹿角市学校教育振興基本計画、鹿角市社会教育</p>

	<p>行政中期計画、鹿角市スポーツ推進計画との整合性を図り、教育大綱を定めることといたします。3、期間につきましては、これまでと同様に令和3年度から7年度までの5年間といたします。</p> <p>裏面をお願いいたします。基本理念につきましては、第7次総合計画の将来都市像を踏襲し、「ふるさとを誇り未来を拓くまち」とし、サブタイトルは引き続き「鹿角の未来を拓く教育の推進」といたします。基本目標につきましては、見直しを行った結果、これまでの目標を継承し、「心豊かでたくましく郷土を愛しその発展に尽くす市民を育む教育を進める」といたします。基本方針につきましては、鹿角市の教育を構成する4項目とし、それぞれの文言に込めた思いをかいつまんでご説明いたします。</p> <p>I. 「学校教育の充実」については、「社会の中で生き抜く心と体」とは、「グローバル化とICT化が急速に進展するSociety 5.0と言われる変化の激しい社会を、たくましく生き抜く豊かな心と健やかな体」を指します。「志の高い子ども」とは、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志をもち、自己実現のために必要な確かな学力を身に付けようと努力している子ども」のことを指します。「一人一人の個性や能力を伸ばす」は、「それぞれ個々が自己有用感をもち、自らの生き方を考え、自分らしく輝けるようにする」ことを目標とするものです。</p> <p>II. 「生涯学習の推進」については、「いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会を充実」し、幼少期から高齢者まで、健常者も障がい者も、性別も国籍も分け隔てなく、切れ目のない人材育成、人づくりを行う生涯学習推進の基盤整備を進め、その成果を地域に還元する地域づくりを推進するものです。</p> <p>III. 「スポーツの推進」については、スポーツ基本法においては、スポーツを通じて心身ともに幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利とされ、スポーツは青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進など、国民生活において多面にわたる役割を担うとされております。この理念にのっとり、スポーツへの参加を促進する取組の充実を通じて、スポーツに親しみ、心身ともに健康で文化的な生活を営むことができる地域社会の実現と、東山スポーツレクリエーションエリアを始めとする、全国に誇れる本市の恵まれたスポーツ環境を活かし、活力に満ちたまちづくりを展開します。</p> <p>IV. 「文化芸術の振興」については、文化の杜交流館の開館を契機に、文化ホールでの芸術鑑賞や、市民活動の充実が図られていますが、さらに、学校や地域、観光との一層の連携により、地域の特色を生かした文化芸術の発展を目指すものです。また、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「大日堂舞楽」「花輪祭の屋台行事」と2021年の世界文化遺産登録を目指している大湯環状列石や2022年のユネスコ無形文化遺産への登録を目指している「毛馬内の盆踊」の「郷土が世界に誇る文化遺産を核とした」地域の活力の創造を目指すものです。以上、簡単ではありますが、鹿角市教育大綱（案）の説明とさせていただきます。</p>
<p>児玉市長</p>	<p>はい、説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見ご質問等がございましたらご発言願います。</p> <p>ございませんか。</p> <p>ないようですので、令和3年度から5年間を期間とする鹿角市教育大綱は、お手元の教育大綱（案）を大綱として位置づけることと決定いたします。</p> <p>次に（3）の重点的に講ずべき施策について協議いたします。先ほどの説明にもありましたように、今年度は、教育に関する各種計画についても策定作業を進め、素案</p>

	<p>がまとまりましたので、これらの計画について意見交換をしたいと考えておりますがよろしいでしょうか。はじめに、第2次鹿角市学校教育振興基本計画（素案）について、事務局より概要の説明をお願いします。</p>
<p>総務学事課長</p>	<p>はい。それでは総務学事課から「第2次鹿角市学校教育振興基本計画」の素案についてご説明いたします。資料4の1ページをお開き願います。</p> <p>第1章「計画策定の全体像」についてです。1「はじめに」では、学校教育における現状や課題に触れ、計画策定の趣旨を述べております。目まぐるしく変わる社会の中で、子どもたちの「生きる力」につながる教育を着実に進めるため、本計画を策定するものです。2ページをお願いします。2「計画の位置付け」は、教育基本法に基づいて策定する計画であるとともに、国・県の教育振興基本計画を踏まえた基本的な計画となります。施策の推進にあたっては、第7次鹿角市総合計画並びに鹿角市教育大綱に沿って展開してまいります。3「計画の期間」は基本計画を令和3年度から令和12年度までの10年間とし、実施計画は、社会情勢や教育環境の変化に対応するため、2、3年ごとに見直ししながら進めてまいります。</p> <p>3ページをお願いします。第2章「基本方針」です。計画策定にあたっては、学校・保護者を対象にしたアンケートや市民アンケートを参考としたほか、地域やPTA、学校関係者の代表からなる学校教育懇談会で2回に渡り意見交換を行っております。これらを基に本市の学校教育が抱える課題を分析し、大きく3点に整理しております。ページ中ほどになります。1点目に、確かな学力と高い志を育てる教育の充実に関すること、2点目に、豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実に関すること、3点目ですが、訂正をお願いします。学校教育環境の「整備を図り」を「充実を図り」とし、最後の部分「教育の充実に関すること」を「実現に関すること」に訂正をお願いします。申し訳ありません。最初から読み上げます。学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現に関すること、であります。学校・保護者・市民の多くが学校教育における課題として捉えているこの3項目は、現行の基本計画においても取り組んできた内容であることから、第2次基本計画においても、3つの基本目標として継承し取り組んでいくこととしております。学校教育の目指す子どもの姿は、3ページ冒頭で示したように「社会の中でたくましく生き抜く心と体をもつ志の高い子ども」としております。この目指す子どもの姿は、教育大綱の基本方針にも掲げております。4ページをお願いします。上段は市民アンケートの結果から、市民が今後10年間で教育に望む重点事項9項目となります。これを基に基本目標の達成に向けて、施策の方向性を定めております。それが下の表となっております。詳しくは5ページ以降で説明します。</p> <p>第3章「施策の柱と具体について」です。ここからは、目標ごとに具体的に講じていく施策の方向性とその柱を示しております。別添のA3判資料に全体像をまとめておりますので合わせてご覧ください。はじめに、目標1「確かな学力と高い志を育てる教育の充実」についてです。施策の基本方向1に、「自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります」とし、施策の柱には、①「なぜ学ぶのかを明確にした、主体的・対話的で深い学びの推進」、6ページに移りまして、②「望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策」、③「読書活動の推進と読解力の育成」を掲げ、各施策に取り組んでいくこととしております。次に、施策の基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます」では、8ページをお願いします。施策の柱を①「社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進」、②「ふ</p>

	<p>るさへの理解を深める体験的な活動の推進」、9ページに移りまして、③「鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成」に取り組んでまいります。次に、施策の基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます」では、10ページをお願いします。施策の柱を①「ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成」、②「グローバル化に対応する能力の育成」、③「他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成」としております。</p> <p>11ページをお願いします。続いて、目標2「豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育の充実」についてです。施策の基本方向4「豊かな心を育みます」では、施策の柱を①「自己有用感と主体性を育む学習集団の形成」、②「規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実」、③「共生社会の形成に向けた人権教育の推進」としております。12ページをお願いします。施策の基本方向5「健やかな体を育みます」では、施策の柱を①「規則正しい生活習慣の確立」、②「食育の推進」、③「体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上」としております。13ページをお願いします。施策の基本方向6「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育を推進します」では、施策の柱を①「特別支援教育の充実」、②「就学前相談の充実と小学校教育との円滑な接続」、14ページに移りまして、③「不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実」としております。</p> <p>次に、目標3「学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育の実現」についてです。施策の基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします」では、施策の柱を①「安全・安心・良質な学校環境づくりの推進」、15ページに移りまして、②「学校の適正配置・統廃合の推進」、③「通学の安全対策」、④「学校の危機管理対策」としております。16ページをお願いします。施策の基本方向8「教職員のモチベーションと資質の向上を図ります」では、施策の柱を①「教職員研修の充実」、②「人事評価制度とキャリアアップ研修の充実」、17ページに移りまして、③「教職員の働き方改革の推進」としております。施策の基本方向9「地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます」では、施策の柱を①「学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進」、18ページに移りまして、②「地域学校協働活動推進事業による学校の活性化」、19ページでは、③「学校の創意工夫による特色ある教育の推進」としております。以上が計画の素案の説明となります。今後の策定スケジュールですが、広く市民から意見を募集するため1カ月程度期間を設け、パブリック・コメントを実施いたします。その後、鹿角市議会教育民生常任委員会へ説明し、最終的には教育委員会会議にお諮りし、決定する予定としております。以上で、総務学事課の説明を終わります。</p>
児玉市長	はい、説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見、ご質問等がございましたらご発言願います。はい、どうぞ。
田中教育委員	はい。5ページ施策の柱①のところの「なぜ学ぶのかを明確にした、主体的・対話的で深い学びの推進」の中で、2行目から「教師のファシリテーターとしての能力が必要になります」と書かれていますが、今までの私の認識だと、教師という立場は教えるという姿勢でファシリテーターというのは若干違うのではないかと感じていたのですが、これからの予測不可能な時代に向けて、教師においても引き出し役のファシリテーターというのが、これからは求められるという解釈でよろしいでしょうか。
児玉市長	はい、教えてください。
学事指導管理監	はい、学事指導管理監の成田です。田中委員のおっしゃるとおりでありまして「チ

	<p>ョーク&amp;トーク」というのは従来の教え込むという形であったのですが、ICT導入含めて多様な考え方を子ども達から出させて、コーディネートしながら新しい価値を見出すといった授業がこれから求められるということでもあります。</p>
田中教育委員	<p>はい。よくわかりました。実は、以前から、対話的若しくは主体的な学びということで、誰かが引き出してくれると、生徒たちにとってもどんどん深まっていくものだと思っていましたが、例えば、答えを導くために、教師の立場でその解決方法を教えるというのと導き出すというのでは、近いようですけど違ったものだと思っております。そういった意味合いで施策の一番のところに「チョーク&amp;トーク」「教える」ということと「学ぶ」という解釈かなと認識しましたので、大変いいことだと思っておりました。</p>
児玉市長	<p>他にございませんか。はい、どうぞ。</p>
和田教育委員	<p>はい。同じ部分になるのですが、5ページの目標1に「確かな学力と高い志を育てる教育」とあります。高い志というものは放っておいて見つかるものではないと思っています。確かな道に人がいて初めて、子ども達が高い志を持つことができると思いますので、16ページの基本方向8に「教職員のモチベーションと資質の向上を図ります」とありますが、こういった部分が非常に重要になってくるのではないかと思います。子ども達が身近に参考になる大人というのは、親であり家族であり、あとは学校の先生が一番大きい目標となる大人だと思います。ですので、教職員というものが子ども達の高い志を持つために、見本となる、お手本となる人材となっていかなければならないと思いますので、働き方改革とともに両立するのは非常に難しい問題ではあるかと思いますが、ぜひ資質の向上という意味では、若い先生達、いろいろ思いがあって教師を目指している若者もたくさんいますので、若者たちが教師になって鹿角に来た時に、鹿角で教師になってよかったと思えるような方向性を打ち出してもらえるようにお願いしたいと思います。</p>
児玉市長	<p>はい、教えてください。はい、どうぞ。</p>
学事指導管理監	<p>はい、学事指導管理監の成田です。和田委員のご指摘ありがたく受け止めております。特にこの「志」の部分でありますけれども、オフライン学習ということで、昨今タブレットの画面をもとに進めるという手法が出てきましたが、まさに、この対極にあるオフライン、そして対話的な学びの部分を大切に、教師の空気感というか子どもと寄り添いながら教師が看過するというか導き出すといったことを大切にしていかなければならないと思いますので、十分大事にしていきたいと思っております。</p>
児玉市長	<p>よろしいですか。</p>
和田教育委員	<p>はい。</p>
児玉市長	<p>他にございませんか。</p> <p>では私から一つ、目標3の学校教育環境の充実についてですが、少子化が進むことが見込まれている中、6次総の学校再編が関係各位、地域の皆様のご協力のもとに順調に進んだことに対して、改めて私の方から感謝申し上げます。令和6年度を目途に次期学校再編計画を策定するとのことではありますが、子ども達が多様な人とのつながりの中で、主体的に学び合える教育環境の充実と施設の老朽化への対応により、やさしい学校づくりが実現するように様々な選択肢を入れて進めていただきたいと思います。</p> <p>よろしいですか。それでは他にないようですので、次に第8次鹿角市社会教育行政中期計画（素案）について、事務局より概要の説明をお願いします。</p>

<p>教育次長兼生涯学習課長</p>	<p>はい、生涯学習課の花ノ木です。私から資料5の第8次社会教育行政中期計画（素案）について説明いたします。1ページをご覧ください。第1章の1、計画策定の趣旨ですが、今年度までの第7次計画の検証、評価を踏まえ、来年度からの第8次計画を策定するものです。2の計画期間ですが、令和3年度から7年度までの5年間です。4の評価体制ですが、社会教育委員の会議において毎年度、評価を受けてまいります。</p> <p>2ページをご覧ください。第2章では、7次計画での現状と課題を整理しております。基本目標の1～6について、評価と課題、成果指標の実績を示しています。特に、7ページにあります「芸術文化活動の推進」については、文化の杜交流館の開館により、成果指標にある芸術鑑賞に親しんだ割合が目標値を上回る結果となっております。</p> <p>9ページをご覧ください。第3章では、市総合計画を踏まえて、8次計画における基本理念、基本目標を定めております。</p> <p>10ページをご覧ください。基本理念を「地域資源を生かし 豊かな学びで人と地域を育む」として、6つの基本目標を設けております。</p> <p>11ページ上をご覧ください。基本目標Ⅰでは、「社会情勢に対応した生涯学習推進・情報発信体制を構築し、社会教育関係団体等との連携を強化します」として、各団体間の連携により各種事業を展開し、生涯学習活動の充実を図るとともに、インターネットの活用による情報発信の強化を図ってまいります。また、図書館を中心に、学校との連携など、読書活動を推進してまいります。</p> <p>12ページをご覧ください。基本目標Ⅱでは、「地域を担う人材を育成します」として、学習内容の充実により、学ぶ意欲のある人材の育成、支援を図ってまいります。また、地域活動やボランティア活動など、市民の主体的な活動を支援してまいります。</p> <p>13ページをご覧ください。基本目標Ⅲでは、「地域・学校・家庭が連携し、子どもたちの育ちと学びを支援します」として、地域学校協働活動の拡充を図りながら、新年度から市内全小中学校ではじまる学校運営協議会との連携体制を構築してまいります。また、家庭教育支援、青少年健全育成に向けて、関係団体と連携しながら、取り組みを進めてまいります。</p> <p>14ページをご覧ください。基本目標Ⅳでは、「地域特性や各世代に対応した学習活動を支援します」として、市民センターを中心とした事業のほか、地域資源を生かした学習活動を推進してまいります。</p> <p>15ページをご覧ください。基本目標Ⅴでは、「文化芸術活動の振興と文化財の保存活用を推進します」として、文化の杜交流館を拠点とした芸術鑑賞機会の提供や、民俗芸能の活動支援、歴史民俗資料館や先人顕彰館事業の実施のほか、2021年の大湯環状列石の世界文化遺産登録実現と活用に向けた取り組みを進めてまいります。</p> <p>16ページをご覧ください。基本目標Ⅵでは、「誰もが尊重され、共に学びあえる地域社会の実現を目指します」として、障害の有無や国籍にかかわらず、誰もが共に学びあえる環境づくりを目指してまいります。以上、6つの基本目標にそれぞれ施策の方向と主な取組、成果指標を定め、点検評価を行いながら、計画を推進してまいります。なお、今後、1月にパブリックコメントを実施し、意見等を反映させながら、3月の策定を予定しております。以上で説明を終わります。</p>
<p>児玉市長</p>	<p>はい、説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見、ご質問等がございましたらご発言願います。</p> <p>なければ、私の方から一点、基本目標Ⅴの文化財に関してです。7次総における世界遺産のまちは、ユネスコ無形文化遺産を含めていますが、自治体ごとの登録件数で</p>

	<p>比較すると、現時点で本市の2件、大日堂舞楽、花輪祭の屋台行事は京都市など11の市町村と並んでトップタイの位置にあります。また、今後の登録も含めると本市は4件になるのですが、同様に京都市も5件に増加することになり、本市は単独で2番目の件数となる見通しです。こういった類まれな歴史遺産を保存しながら経済活動と連動させて活用することは、世界的なグローバル化の進展の中で地域間競争に勝ち残る戦略として、本市の価値を確立することになりますので、そのための観光分野と教育委員会との連携はもとより、お互い調和してスピード感をもって展開する必要があると考えておりますので、ぜひこの点に十分配慮して取り組んでください。</p> <p>このことについて、何かあればお願いします。</p>
教育次長兼生涯学習課長	<p>はい。一番最初に市の総合計画の説明がありましたけれども、その中で経営戦略の中に「ヘリテージツーリズム」の取り組みをうたっておりますが、これについて具体的に観光分野と中身を詰めながら、当初予算、また、今後の取り組みについて検討しているところであります。</p>
児玉市長	<p>今言ったのは、例えば、秋田県は観光文化スポーツ部がある。隣の大館市もそうです。我々のなかでもそういう話は出ている。ただ、そういった場合に教育委員会そのものの立ち位置が脆弱になるので、その辺を含めての話なので、十分配慮していただきたいと思います。</p> <p>他に、どうぞ。</p>
田中教育委員	<p>はい。今市長がおっしゃったヘリテージツーリズムにつながるような文化遺産とか歴史の様々なものを産業に結び付けるということは素晴らしいことだと思います。また、中学校等のアンケート結果を拝見いたしましたけれども、誇れるまち鹿角の中に、花輪ばやしであるとか、世界遺産とか、非常に濃い位置づけでありました。そういったところで、イベント文化であるお祭りとか世界遺産のまちということは大変素晴らしいと思っています。ただ、現実の話をしてみると、花輪ばやしをとってみれば、これから継続するのは大変難しい状況に陥ってきているのではないかと思います。ですので、祭りに参加するには、早いうちに準備しないとこれから5年、10年後に同じことができるか心配している一人であります。教育と産業を結びつけるという意味も含めて、本当に市と教育委員会が横断して垣根を越えて、人材育成も含めてやっつけなければ、現場の人間としては恐怖感を覚えていると思います。その辺をぜひ配慮していただきながら、色濃くやっていただければありがたいなと思います。</p>
児玉市長	<p>答えてください。</p>
学事指導管理監	<p>学事指導管理監の成田です。先ほどの第2次鹿角市学校教育振興基本計画に戻りますけれども、7ページの下の方に、「鹿角の未来を支え盛り上げる人材を育成する」と書いておりますけれども、令和3年度から「ふるさとかつの絆プラン事業」を立ち上げております。その理論は、小・小連携、中・中連携ですが、具体的には今まで各地区で行ってきっていたお祭りなど、垣根を越えて鹿角全体をフィールドとして取り組んでいければと考えております。具体的には、花輪小学校の児童が十和田小学校に行って毛馬内盆踊りを一緒に習うとか、逆に十和田小学校の児童が花輪小学校に来て花輪ばやしを習う、一緒に踊る、太鼓を叩くとか、そういった活動ができないかと、新しい事業を立ち上げるのではなく、今までの事業に乗っかって招待したり招待されたりしながら体験を深めるという活動をしながら、伝統芸能の継承も含めて、新しい絆というか顔見知りを増やしながら、新しい鹿角を創っていくというような、可能性を模索したような事業を記載しておりますので、後でご覧いただきたいと思います。</p>

田中教育委員	大変心強い方針をきいて安心しているところでもあります。風土的に地域の人しかその祭りに参加できないといった体制があったという反省をもとにしながら、祭りのあり方も変わっていかねばならないと思いますし、あわせて私たちも変わっていかねばならないと思いますので、そこを生涯学習の方で検討するということも含めて、推進していただければありがたいなと思います。
教育次長兼生涯学習課長	民俗芸能の関係につきましては、保存会の皆さんと来年度の取り組みについて意見交換をしていますので、引き続きそういった形で情報交換をしていきたいと思っています。
田中教育委員	ありがとうございました。
和田教育委員	文化財の保存継承についてですが、大きいものに関しては元がしっかりしてきちんと管理されていると思いますが、鹿角市の文化財として持ち主が個人になっているものもあると思いますが、私自身も自分のところの神社の絵馬が文化財として指定されておりまして、市の方から管理をしっかりとと言われておりますので、その点注意しながら進めているのですが、全体的に見てこういったものはきちんとなされているのか、気になっているところがありまして、例えば、高齢世帯の一人の人が所有しているものなどはどうになってしまうのかと不安を感じています。その中で、鹿角市の文化財に目を向けていただく機会が広がっていると思いますので、鹿角市にこういったものがあるよというときに継承がしっかりなされていないと、いつの間にかどこに行ったか無くなってしまうということが決してないように、進めていただければと思いますので、よろしくお願いします。
児玉市長	いずれ、数が多くあるので見直しをかけないと。きちんと整理して。 他にございませんか。他にないようですので、次に第3次鹿角市スポーツ推進計画(素案)について、事務局より概要の説明をお願いします。
スポーツ振興課長	スポーツ振興課 成田です。私から第3次鹿角市スポーツ推進計画(素案)について説明いたします。資料6をお手元をお願いいたします。本市のスポーツ推進計画につきましては、国の「スポーツ振興基本計画」の策定を受け、平成19年3月に、本市の実情にあったスポーツ振興施策を体系的かつ計画的に推進するため策定されました。平成28年には第2次計画、そして5年経過した今年度、見直しを図り、第3次計画を策定するべく作業を進めているところであります。 計画の6ページ、7ページをお願いいたします。内容といたしましては、先ほど説明がありました第7次鹿角市総合計画におけるスポーツに関する部分、取組方針4「心身の健康づくりに取り組みます」の中で生涯スポーツの推進を掲げ、また取組方針25「スポーツの力でまちの魅力を高めます」において、全国規模のスポーツ大会の開催や恵まれた施設環境を活かした取組を掲げており、これらについて反映させているほか、一部成果指標や目標値の見直しを図ったものの、概ね第2次の計画を踏襲したものとしております。 9ページをお願いいたします。スポーツの意義においては、心身の健康保持増進に役割を果たすほか、夢や感動など活力ある健全な社会形成への貢献など、多様な意義をとらえ、市民一人ひとりが自らスポーツに親しみ、スポーツを通じて心身とも幸福で豊かな生活を営むことができる社会の実現と、恵まれたスポーツ環境を活かした、活力に満ちた地域社会を目指すことを基本理念としています。 11ページをお願いいたします。施策の展開を樹形図にしておりますが、本計画では4つの基本目標に基づき、それぞれの施策ごとに現状と課題を踏まえて、成果指標と目標値および具体的な取組事項等を示しています。

	<p>12ページをお願いいたします。基本目標1、生涯スポーツの普及推進では、生涯各期におけるスポーツ活動の充実を図るために、世代別の取り組み、あるいは世代間交流の取り組みなど幅広く施策を展開したいと考えております。特に社会体育化、いわゆるスポーツ少年団化が本市では一段落しましたが、ジュニア期、学校就学期における取り組みと、前回策定時から高齢化率が5ポイント上昇しておりますが、高齢者のスポーツについて保健、福祉部門と連携した取り組みを進めたいと考えております。</p> <p>17ページをお願いいたします。基本目標2、スポーツによるまちづくりの推進では、本市の恵まれたスポーツ施設環境を活かしながら、歴史や伝統ある各種大会等を通じて、競技人口の拡大、さらにはトップアスリートの育成、強化を図っていくこととしております。特に本市の特徴であります「スキーと駅伝」においては、これまでと同様、継続した取り組みを進め、全国に発信していくことを目指します。</p> <p>21ページをお願いいたします。基本目標3、指導体制の確立と指導者の育成につきましては、本市のスポーツ少年団の指導者登録は、社会体育化を進めたことにより、急速に増えました。しかしながら子供の卒団と同時に資格取得した保護者も卒団する傾向が強く、指導者不足の解消には至っておらない状況であります。今年度から指導者の資格取得が新しい制度に切り替わっており、これまでより少しハードルが高くなったこともありますので、引き続き、指導体制の確立と指導者の育成に努めることとしております。</p> <p>23ページをお願いいたします。基本目標4、スポーツ施設の利用促進と整備では、東山スポーツレクリエーションエリアをはじめ市内各所にさまざまな体育施設を有しております。花輪スキー場はアルペン、クロスカンントリー、ジャンプの3つの競技が一堂に開催できる全国でも屈指のスキー場であります。体育施設の充実は、本市のスポーツによるまちづくりの推進に欠かせないことから、計画的な整備を進めてまいります。以上で概要の説明を終わりますが、この計画の策定に際しましては、一昨日、鹿角市スポーツ推進審議会へもお示しし、意見等をいただいております。またこの後、パブリックコメントを実施し、幅広く寄せられたさまざまな意見等を反映させながら、今年度中の策定を予定しているものです。以上で説明を終わります。</p>
児玉市長	<p>はい、説明が終わりました。ただいまの説明について、委員の皆様から、ご意見、ご質問等がございましたらご発言願います。</p> <p>私から、基本目標2、スポーツによるまちづくりの推進に関してです。スポーツには社会経済の活力創造の役割がございまして、今後も成熟した社会のありように沿って、スポーツの産業化が拡大していくものと考えております。本市においても、東山スポーツレクリエーションエリアのインフラの充実や大規模大会の開催など、スキーと駅伝のまちが経済効果をもたらしてきたところではありますが、今後、スポーツによるまちづくりが地域に根付いてきたときにはスポーツと関連深い企業、例えば、観光業界や食品業界などとの連携による大会開催、あるいはスポーツを支える人材の確保などを一緒に取り組んでいくことがさらなる成長に必要な要素だと考えております。教育委員会との切れ目のない連携が不可欠と考えておりますので、ぜひこれからも頑張ってくださいと思います。</p> <p>委員の皆様から何かございませんか。はい、どうぞ。</p>
和田教育委員	<p>まず、鹿角市として、こういったことをうたっていくにあたって、市長がおっしゃられた産業化ももちろん大事だと思いますが、やはりうたう限りは、市民としてもスキーが得意とまではいきませんが、大抵のことはできるという環境になってほしいと</p>

	<p>いう思いがあります。私自身、小さい頃、クロスカン트리スキーをやっていたので、けっこう思い入れがあるのですが、今の子ども達を見ていると、自分の子どもも含めて基本ができていないというのが現状です。私自身の忙しさもあるのですが、スキーに行こうかという話がなかなかできない状況なので、できれば、子ども達の忙しさというのを総合的に考えていただいて、スポーツにも取り組める、北国育ちだとどうしても大学生になって関東の方に行くと、スキー、スケートできて当たり前というふうにみられますが、実際、スキーをほとんどやったことがない子どもが多いと思いますので、そういうところにも少し配慮していただけるような学校生活といえますか、なかなか個人で動くというのは難しいので、総合的にみて子ども達が様々なスポーツに取り組める環境を提供していただければと思いますので、その点ご配慮お願いいたします。</p>
スポーツ振興課長	<p>スキー授業につきましては、時間の確保については総務学事課との連携が必要かと思いますが、スキー授業についてはスポーツ振興課の方で主体的に行っておりまして、手厚く、バスで送迎して、スキーもウェアも用意してといった形で、中学校1校を除いて全部の学校で行われている状況です。子ども達がスキーに親しむ時間を作っていただきたいということで、スキー授業についてはいろいろ工夫しながら続けていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p>
和田教育委員	<p>引き続きよろしく申し上げます。</p>
吉田教育委員	<p>今の和田委員と同じですが、スキーのまちづくりの推進について、花輪スキー場であったり、東山の陸上競技場も、城山野球場も、鹿角市には、近いところに競技に親しめる場所がたくさんある割に、特定の子も達しなかなか参加できないというのが現状だだと思います。学校の授業に限らずに、例えばクリニックみたいに、何曜日に何年生にスキー教えますよという会があってもいいのかなと思います。どうしても親世代がスキーを離れている、競技から離れていることから、子どもに教えることができないというもったいない環境にあるのかなと思いますので何か考えていただければと思います。高学年になる前に、小さいうちから親しめる環境があればいいと思います。</p>
スポーツ振興課長	<p>それに関しては、うまくいっている競技もありますので、そういった競技を参考にしながら、また、スキーに関して言いますと、安全面の観点から、多くの指導者といえますか、保護者を通じてお手伝いの方をお願いしていますが、なかなか集まらないという状況で苦慮しているところではありますが、いただいたご意見をもとに、せっかく恵まれた施設環境がありますので十分生かせるようにしていきたいと思っています。</p>
児玉市長	<p>その他ございませんか。</p>
田中教育委員	<p>資料12、13、14ページにある基本目標1の生涯スポーツの推進について、各年代の健康に関するところが色濃く具体的に書かれていて素晴らしいと思います。その中で、やはり、生涯スポーツと健康と考えたときに、競技でなくても、ウォーキングやジョギングなど健康づくりにつながるのがスポーツだと思います。それで、東山運動公園外周のマラソンコースでウォーキングすると膝に負担がなくていいなと思っていますが、雪が降ってアルパス内を歩くと膝が痛くなったりします。そういう意味で、気楽に競技ではない健康増進につながるようなスポーツを推進するという意味で、もう少しケアをされてもいいのではないかなと思いますので、その辺はいかがでしょうか。</p>
スポーツ振興課長	<p>我々も計画を作るにあたって、競技スポーツの方はかなり力を入れて取り組んでいると捉えております。ただ、生涯スポーツ、各世代、子どもからお年寄りまでの高齢者スポーツの部分で少し取り組みが弱いのかなと感じていて、ご指摘のとおりだと思</p>

	っております。優れた環境を有しているといいましたけれども、施設の老朽化といったところもありますので、今後の改修にあわせてそういった要望も取り入れていきたいと思っています。
田中教育委員	よく東京などに出張したときにはかなりの距離を歩いています。帰ってくるとあまり歩くチャンスがなく無理に歩いたりしています。生涯スポーツを通して、体を動かしましょうというように具体的に推し進めていただければ、特に我々の年代はスポーツをする機会が少ないので、健康につながるようなスポーツを推進する具体的なプランをお示ししていただければ取り組みやすいのかなと思います。最近では何歩歩けば保険代が安くなるというような保険も出てきていますので、目標値を定めながらやっていけば大変充実したものになるのではないかと思います。
児玉市長	高齢者の方々も歩いているよね。
田中教育委員	例えば、まちを歩いても運動効果はないそうです。ある一定の心拍数にならないと運動にはつながらないということだと思いますので、そうなるとやっぱり体育施設の充実が求められると思います。
児玉市長	ただ、施設だけ増やしても健康づくりと一緒にやらないと進まないと思う。誰でも気軽にできるメニューを作ったらいいのでないか。 他にございませんか。それでは、他にないようですので、これで意見交換を終了したいと思います。次に、5のその他であります。何かございませんか。  今日、ある場所で、高齢者に「市長さん、国体やるのですか」と言われて、「どうしてですか」ときいたら「田沢湖でも中止になったし、コロナの感染が心配だから」と。「無観客で万全な体制でやりますよ」と伝えました。そういう市民もいました。もう少し宣伝しないといけないな。いずれ、県がやるといってるのだから頑張ってください。  何かないですか。 除雪大丈夫ですか。芦名神社。
和田教育委員	今のところ大丈夫です。一回えらい目にあいました。神社が壊れるという、そのあと配慮いただきまして解消いたしました。建てた当時お手紙いただいて。
児玉市長	あそこ屋根に雪溜まりますか。
和田教育委員	溜まるのですが、ああいう神社の屋根は勾配が急なので落ちるのですが、落ちるまでどのくらい溜まっているのか、落ちたのが反対側にぶつかるといういろいろな問題があります。
児玉市長	道路は除雪してありますが、神社はうまくやってください。 ちょっと聞きたい、さっきの話で小学校35人学級について、例えば、36人になれば18人ずつの学級になるの。今もやっているのではないか。
学事指導管理監	鹿角市とか秋田県ではあまり関係ないと思われます。都会の話。
児玉市長	中学校は40人欠けてるからな。
学事指導管理監	大きい市内の学校は該当するのですが、ほとんど対象外。
児玉市長	先生たちは万全に対応するといっても、ちょっとこれはまゆつばものだな。
畠山教育長	最初文科省は30人という話でしたが、折衷案だと思います。
児玉市長	全国で35人以下というところ9割地方でないか。関係ないよな。
教育部長	マンモス校だけです。

田中教育委員	<p>今、国が進めているGIGAスクール構想についてですけれども、先般の教育委員会会議でハードの整備、ネット環境の整備の説明がありました。これがいよいよ次年度に向けて進むと思うのですが、私が心配しているのは、物が揃った、環境が整ったけど、それを使ってどうやっていくのか先生方の人材育成も含めて課題になると思います。そういったところを最初、1年、3年くらいのスパンで、鹿角ならではの支援をしていただければ、デジタル化、GIGAスクール構想について成功率が高まるのではないかと思います。国の方針では何校に1人とか2人とかになると思うのですが、鹿角版の構想、何か支援は考えられないのでしょうか。</p>
児玉市長	<p>国の方針で、専門家を推進員として地方に配置したいという話があります。そうしないとなかなか容易でないと思うし、たとえば、今、観光部門はだいぶ厳しい状況なので、ANA、全日空で社員を市町村に国の補助を使って派遣するからどうですかという話が出ています。国がデジタル化を打ち出したのでそういう方向で検討に入っています。</p>
田中教育委員	<p>多分そういった支援員というのはある意味争奪戦になるのではないかと思いますので、早いうちに手を打っておけば、レベルの高い力のある人が確保できるのではないかと思います。</p>
畠山教育長	<p>私から少し補足します。この間の教育委員会会議での田中委員の質問に対する成田管理監の説明の繰り返しになるかもしれませんが、来年度はスタートして、どういう弊害や課題があるのかできるだけ早い段階で把握して、可能であれば補正とか予算編成で対応していきたいとお答えしたと思います。</p> <p>その合間を縫って、県内の企業の方からもアプローチされていますが、どちらの方に力を入れて支援員を配置するのか、教師のアシスタント的な役割をするのか、それとも、子ども達の初歩的な操作方法の支援をするのか、まずそれが一つあります。</p> <p>それから、学校生活サポーター、学習支援サポーターを鹿角市が配置していますが、年々その対象となる児童生徒が増えていまして、保護者の方からもっともっと手厚く支援してほしいと学校を通していわれております。ただ、そのとおり配置していくと、市役所全体の会計年度任用職員の数が膨大に膨れ上がってしまうので、市全体として考えていかなければならない2つ目の課題があります。結論としては、来年度はまずは具体的にICT、GIGAスクール構想のスタートをしっかりと見届けた上で対処していくって、市全体の予算や政策の方向性が許すのであれば、R3年度途中若しくはR4年度当初でそういった人材を配置していけばいいというのが現時点での考えです。</p> <p>今、市長の方から、ANAの優れたスタッフがもしかしたら鹿角に来るかもしれないということなので、その中でICTに精通している人がいるのであれば、特別の給料を払うなら別ですが、それは国で補助するのですか。</p>
児玉市長	<p>国の補助。ただ、まだ詳しい中身を詰めていないので。</p>
教育部長	<p>県庁は決まりました。</p>
児玉市長	<p>今言ったように、優先順位をつけないといけない。なんでもかんでもというわけにはいかない。財政的なこともあるので。</p>
教育部長	<p>先ほど教育長が言ったとおり私たちもいろんな人材が欲しいわけですが、果たしてICTの推進員がサポーターより上位なのか。ちょっと私たちもつかみ切れなくて、教育長が言ったとおり1年間現状把握して、課題を見ながら人材を求めていくしかないと思っています。</p>
田中教育委員	<p>そうなんですよね。計画を練る人と実際現場で使用する人は違うと思うんです。位</p>

	置づけもありますし中身もありますし、せつかく予算を確保して実施するのでスピードが求められると思うので、その辺を心配しています。
児玉市長	国がどういうふうに進めていくか。
政策企画課長	可能性のある話だと、ANAでなくてJALかもしれません。JALの方です。
児玉市長	ANAでなくJAL。俺ANAってきいた。
政策企画課長	航空業界は同じような事情がありますので。
和田教育委員	今の話だと、支援員が配置になるかもしれないということですが、いろいろみていただきたいのが、子ども達の扱いがうまくいっているかとか授業がうまくなされているかとか、あと先生によって必ず差が出るはずなんです。積極的に取り入れて活用しようとする先生と、言い方が悪いですがそうでない先生が出ると思うので、そういったところの標準化を図れるようにしっかりみていただきたいと思います。どのように使っていくかの方向性は学校である程度決められると思うのですが、それでも先生によって使う頻度に差が出ると思うので、十分な活用がなされるようにお願いします。
総務学事課長	ICTの環境については、今年度で導入を完了しますので、来年度は活用の方に重点を置いて進めていきたいと思っています。端末の活用に関しては、毎日の授業のコマ数、目標数値を掲げまして、教育委員会から指示を出しながら、先生間若しくは学校間で差が出ないように取り組んでいくこととしておりますので、研修や実践発表の機会を設けながら進めていきたいと思っています。
和田教育委員	実践発表をやることによって、ものすごくアイデアが出てくる先生と、見ないと出てこない先生とがいると思うので、そういう機会を設けていただいて差が出ないようにしていただきたいと思います。
児玉市長	管内にはそういう先生はいないよね。信頼しているから。
学事指導管理監	使い方については、若い先生たちは、画像を取り込んだり、動画を見せたり、クラウドに入っていったり保存したり、宿題を配信したり、結構覚えると思います。ただ、ベテランの先生も侮ってはいけなくて、画像を出したり活用するタイミングとか、コツを覚えていて、ただ操作を覚えるのではなく、どのタイミングで使うかがポイントだと思います。
児玉市長	頑張ってください。 他にございませんか。他にないようですのでこれで終了したいと思います。本日協議が整いました教育大綱及び重点施策等につきましては、市と教育委員会が一丸となって、さらなる充実を図り進めていきたいと考えておりますので、教育委員の皆様には、引き続きご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。それでは、以上を持ちまして、鹿角市総合教育会議を閉会します。本日はありがとうございました。

(午後2時58分開会宣言)